

Home > 活動報告・お知らせ > 活動報告 > 8日間で500人以上が島の魚を堪能！ritokey×まちの社員食堂「島の魚食WEEK」を開催しました

8日間で500人以上が島の魚を堪能！ritokey×まちの社員食堂「島の魚食WEEK」を開催しました

📅 2021年8月4日 🔄 2021年8月5日 📌 活動報告

特定非営利活動法人離島経済新聞社は、2021年7月12日（月）～16日（金）・19日（月）～21日（水）に面白法人カヤックが運営する「まちの社員食堂」（鎌倉市）とのコラボレーションによるイベント”ritokey×まちの社員食堂「島の魚食WEEK」”を開催いたしました。

このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



イベント概要

特定非営利活動法人離島経済新聞社が発行する有人離島専門メディア『ritokey』『おいしい！たのしい！島の魚食図鑑』特集（2021年5月27日発行 | フリーペーパー版・ウェブ版）の関連企画として同特集に登場する伊豆諸島（東京都）、家島諸島（兵庫県）、対馬島（長崎県）、五島市（長崎県）、沖永良部島（鹿児島県）の「島の魚」を、鎌倉の「まちの社員食堂」で提供しました。

- 日程：2021年7月12日（月）～16日（金）・19日（月）～21日（水）
- 開催場所：まちの社員食堂（鎌倉市）
- 販売数：541食
- 協力団体：面白法人カヤック

全国5地域の島から直送された「島の魚」を日替わりで提供！

2021年7月12日（月）～16日（金）は5つの離島エリアから日替わりで1エリアの魚介を使ったメニュー、19日（月）～21日（水）の3日間は5つの島全ての魚を使った海鮮丼を提供し、8日間で累計541食を販売しました。

最近の投稿

『季刊ritokey』36号「島の文化に問う未来」特集を発行しました

8日間で500人以上が島の魚を堪能！ritokey×まちの社員食堂「島の魚食WEEK」を開催しました

『ritokey』『おいしい！たのしい！島の魚食図鑑』を読む島好きの会を開催しました

島の地元編集者と個性豊かな魚食文化を楽しむオンライン交流イベントを開催しました

【報道資料】『ritokey』『おいしい！たのしい！島の魚食図鑑』を読む島好きの会 7月16日（金）オンライン開催

アーカイブ

2021年11月

2021年8月

2021年7月

2021年6月

2021年4月

2021年3月

2021年2月

2021年1月

2020年11月

2020年10月

2020年9月

2020年6月

カテゴリ

お知らせ

プレスリリース

メディア掲載

活動報告

検索 ...

検索



伊豆大島昼定食



伊豆大島夜定食



家島昼定食



五島市昼定食



沖永良部島お刺身定食



5つの島の魚をつかった海鮮丼

食を通して島の魅力を発信

約6,800島からなる島国・日本には、約400島の有人離島地域（以下、島。※）があり、数えきれないほどの宝が存在しています。島々に息づく「魚食」の文化もその一つです。

（※）北海道・本州・九州・四国・沖縄本島を除く人が暮らす島々

海に囲まれた島々では、古来、海の幸を楽しむ食文化が育まれてきました。島々の異なる環境のなかで多様な食文化が生まれ、郷土食として根付いていますが、島の魚介や加工品は生産量も流通量も少なく、他地域に暮らす人にとって、なかなか触れる機会は多くありません。

本イベントでは地域の異なる島の魚介を食べていただくと共に、島の魚介を使った加工品の販売や、店内で各島の紹介動画を上映するなど、少しでも島について興味を持っていただく機会創出の場となるよう、企画いたしました。

「まちの社員食堂」の担当者は、今回の企画について以下のように振り返りました。

「家で調理しにくい新鮮なお魚が食べられるということで、お客様にとっても喜んでいただきました。離島からお魚を取り寄せるという、個人では実現しにくい特別感も相乗効果があったと思います。

また、この企画をきっかけに、対馬も五島も”磯焼け”に大変悩まされているという事実と、それを解決するために害魚とされる魚をすり身や魚醤にしたりすることで駆除

するのではなく、商品化してポジティブに解決していることや、新型コロナウイルスの影響で魚が売れず、漁にも出られないという島の課題を知りました。遠く離れた離島にまで新型コロナウイルスの影響があることに衝撃を受け、魚＝鮮魚というイメージがありましたが、この事情を知り加工品もメニューに取り入れさせていただきました。」

実際に食堂を訪れた方々からは、「今、なかなか旅行に行けないが、行けるようになったらこの島に行ってみよう」など、島に思いを馳せる声も多く聞かれ、それぞれの島の特色ある魚食を通じて、広く島々の魅力を伝える機会となりました。



日本財団「海と日本プロジェクト」



さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

海と日本PROJECT【日本財団】

日本全国の海に関する様々な情報を日本財団「海と日本PROJECT」がお届けします。おでかけにぴったりのイベント情報や、海の現状を知る最新調査報告など、海を知って、海を…



uminohi.jp

< 古い投稿

『ritokei』「おいしい! たのしい! 島の魚食図鑑」を読む…

新しい投稿 >

『季刊ritokei』36号「島の文化に問う未来」特集を発行…

関連記事



活動報告

サポーター会員限定ライブ配信イベント「リトケイ2021新春トーク」を開催しました

2021年1月7日、日頃応援してくださっているサポーター会員の皆さまに

向けた限定オンラインイベント「リトケイ2021新春トーク」（ライブ配信）を開催しました。配信では代表理事 大久保昌宏、統括編集長 鯨本あつこ、編集ス[...]

2021年2月15日



活動報告

『季刊ritokei』33号「島から考えるポストコロナ」特集を発行しました

11月26日に有人離島専門フリーペーパー『季刊ritokei』33号「島から考えるポストコロナ」特集を発行しました。2020年初頭、世界に広がり、離島地域を含む日本全体にも多大な影響を及ぼす新型コロナウイルス感染症（以[...]

2020年11月26日



活動報告

『季刊ritokei』34号「離れていてもつながりあえる 集まれ！島想い」特集を発行しました

2月22日に有人離島専門フリーペーパー『季刊ritokei』34号「離れていてもつながりあえる 集まれ！島想い」特集を発行しました。『季刊ritokei』34号では、「人と島の想い」を軸に、離れていても支え合えることの[...]

2021年3月1日




活動報告

KDDI×リトケイ「しまものラボ」を8地域目となる大崎上島でスタートしました

11月30日、KDDI株式会社と離島経済新聞社が共同実施する講座「しまものラボ」を大崎上島（広島県大崎上島町）でスタートしました。講座の目的は、島々でつくられる製品のブランディングや商品PRの向上。「通信とライフデザイ[...]

2020年11月30日

 **離島経済新聞社**
NPO法人離島経済新聞社
東京都世田谷区三軒茶屋1-5-9
[お問い合わせフォーム](#)

[>>有人離島専門ウェブメディア『ritokei』](#)
[>>有人離島専門フリーペーパー『季刊ritokei』](#)

離島経済新聞社を支援する